

港町ミュージアム5 学習指導案

- 1 場所：教室
- 2 題材名：作品と話そう（立体）
- 3 題材について

絵画は色や線を使って平面に表現する。彫刻作品はさらに形や量や空間を立体に表現する。また、何かの具体的な形をあらわしている作品を具象彫刻とするなら、テーマに沿った形や質感を作者の感性で表したものが抽象彫刻と言える。抽象作品は一見わかりにくいように感じるが、作品から受ける印象を大切にしながら、児童が自分なりの見方や感じ方を自由に楽しむことができる。

広島県立美術館が所蔵する抽象彫刻、ジャン・アルプ「目覚め」はまるで生き物のような力強い生命感の感じられる作品である。台座の上に一点のみを固定して立つ姿には緊張感がある。捻りを見せて空へ向かって伸びようとしているように感じさせる形は目覚めたばかりの生命がこれから無限の可能性を秘めて成長していこうとする躍動感があふれ、児童がもつエネルギーに通じるものがある。見る角度によってさまざまな印象や発見が期待できる作品と言える。

指導に当たっては作品から受ける印象を話し合ったり、自分なりのタイトルを考えたりする活動を通して、作品の躍動感や形のおもしろさやエネルギー、自分なりの見方で作品を楽しむこと、自分では気づかなかった友だちのいろいろな見方を知る楽しさをしっかり味わわせたい。また、そのことが作品を多面的に見る楽しさを知り、より充実した鑑賞活動をしようとする意欲を育てることにつながると思う。さらに、本時を県立美術館での団体鑑賞時に実物を鑑賞し、見る角度による見え方の違いや質感を感じさせ鑑賞を深めさせたい。

- 4 学習目標
 - ・ 鑑賞したことを友だちと話し合うことを通して、形のおもしろさや表現の工夫に気づく。
- 5 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項() (「努力を要する」と判断した児童への指導の手だて)	評価規準 (評価方法)	準備物等
1 「目覚め」の写真を見て、その題名を考える。 作品のタイトルを考えよう。 ・ いるか ・ かたまり、だんご ・ なぞの形 ・ ぐにゅぐにゅ ・ 体操している人	自由な発想で鑑賞できる雰囲気を作る。 形に視点を当てさせ何に見えるか考えさせる。 作品のどこからそのタイトルを思い付いたか発表させる。 発想が浮かびにくい児童には全体を見るだけでなく、部分にも着目することで発想しやすくなることを知らせる。	作品の形に関心をもってみる。 [鑑賞の能力] (行動観察)(学習カード)	広島県立美術館の所蔵作品 「目覚め」の写真 学習カード
2 作品の印象を話し合う。 ・ ぐにゅとしたかんじ ・ 粘土で作っているみたい。 ・ どうやって立ててあるのだろう。 ・ 人がポーズをとっているみたい。 ・ 一番上のところが鳥の頭みたい。 ・ 鳥が背伸びしている。	「目覚め」を見て感じたことや、何に見えたかなど、自分なりの見方を学習カードに記入させてから発表させる。 感じ方や見方の共通点や相違点を見つけながら発表したり、聞いたりさせる。	作品の見方や感じ方を友だちと話し合うことができる[造形への関心・意欲・態度][鑑賞の能力]	
3 学習のまとめをする。	いろいろな感じ方や見方を知ることができたか確かめる。		

